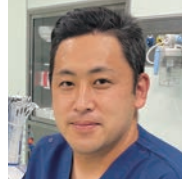


## 修了生の声



杉山 周太 さん 2018年度修了 勤務先 国際医療福祉大学熱海病院

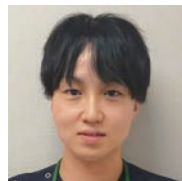
周術期看護は継続的で一貫性のある看護が重要と言われていて、臨床の中でそれができ、看護師と協働してできるように調整や教育ができるようになってみたいと思ったのがきっかけです。

本学の関連病院で勤務しているため学費や勤務調整の支援があり、働きながら学べる環境であったことも進学先を選んだ理由です。静岡から東京まで通っていましたが、オンラインでの講義もあり、勤務している関連病院内で講義を受けられる環境もありました。学習内容としても、解剖生理学、病態などの基本的な講義や臨床推論や疾病管理など新たな分野の講義、演習など充実していると感じたので、入学したいと思いました。まだ始まったばかりの分野で先が見えにくいですが麻酔について学び、研究をすることで解剖生理学などの振り返りもできます。特に臨床で様々な経験を積んだうえで教育を受けることは自分を振り返る機会となり、成長できる方法の一つであると思います。



栗岩 涼 さん 2019年度修了 勤務先 国際医療福祉大学成田病院

看護大学を卒業後、急性期病院で3年間手術室看護師として勤務し、麻酔についてもっと学びたいと思っていた時に、周麻酔期看護師という存在を知りました。私がこの大学を選んだ理由の1つは働きながら学びやすい環境であったことです。講義が週の後半にまとまっているため、手術室看護師として働きながら大学院に通うことができました。さらに実習が行われる関連病院で働くことで、スタッフが顔見知りとなり、電子カルテや手術室の雰囲気、流れなどを実習前から知ることができ、実習も戸惑うことなく臨めました。また周麻酔期看護師以外の専門的な勉強をしている看護師と一緒に学ぶことで他領域の在学生から多くの刺激を受けることができました。手術室以外の業務拡大に伴い麻酔科医が不足している中で、安全で質の高い麻酔を提供するために、周麻酔看護のスペシャリストになって私たちと一緒に働きませんか？



中川 遣二 さん 2020年度修了 勤務先 国際医療福祉大学三田病院

現在私は、国際医療福祉大学三田病院の麻酔科に所属し、麻酔科診療に携わる日々を過ごしています。大学院とは自分自身を見つめ直し可能性を広げてくれる場であると認識しています。院生との切磋琢磨や先生方の指導によって学問の醍醐味を教えてくださいました。自ら実習期間の延長を懇願したいほど臨床麻酔の指導が行き届いた環境と言えます。是非とも周麻酔期看護学領域で麻酔における学問と臨床を学び、今後の麻酔診療の一躍を担う存在になってもらいたいです。



伊藤 毅 さん 2020年度修了 勤務先 聖路加国際病院

私は看護師になってから手術室、救命センター、ICU、急性期病棟を経験してきました。そのなかで興味があり勉強したいと思っていた周麻酔期看護学の修士課程を受験し、修了後は看護師として専門性を深め今までと違う働き方がしたいと思い、目指しました。本学に入学した理由は、働きながら学べるところです。全日制の大学院では仕事を完全に辞める必要があったのですが、1年次は週3日ほど学校に行き、残りの週4日ほどは仕事ができます。働きながら大学院に通うことが出来るというのは、当時の私には大変大きなメリットでした。

現在は麻酔科に所属し、麻酔科医師の指導のもと手術における麻酔導入から覚醒・抜管までの管理、麻酔科外来診察、APS (Acute pain Service) 回診、無痛分娩などを麻酔医と協働して実践・補助を行います。

周麻酔期看護学は看護師として将来の選択肢・可能性を増やしたいと思っている人、麻酔に興味があり専門的な知識を深めたいと思っている人にぴったりだと思います。私自身、修了後は、働き方が大きく変わりました。毎日が勉強の日々ですが充実した毎日を送っています。周麻酔期看護学の修了者は少なく、知名度はまだ低いですが、共に周麻酔期看護学を発展させて行きましょう。皆さんお待ちしております。

## 問い合わせ

国際医療福祉大学大学院 看護学分野 周麻酔期看護学領域では周麻酔器期看護師として活躍したい大学院生を募集しています。

- 【出願資格】**
- ・手術室、ICU、急性期病棟のいずれかまたは3年以上の実務経験を有する方
  - ・授業が木、金、土曜日にあります（※1年次）。勤務先の病院から了承を得ている方
- 【事前面談・相談】**
- 気軽にお問い合わせください。
- ・入学を希望される方
  - ・入学を希望したいが迷っている方
  - ・周麻酔期看護師に興味をもっている方
  - ・周麻酔期看護師と特定行為看護師で悩んでいる方

**【問い合わせ】**

国際医療福祉大学大学院 周麻酔期看護学領域  
水戸部 優太（看護師）  
mail: yuta.mitobe@iuhw.ac.jp

## 国際医療福祉大学大学院

### 看護学分野

#### 修士・博士課程

- 管理実践看護学領域(DNPコース) ※博士課程
- 看護管理・政策学領域
- 看護実践基礎・援助学領域
- 感染管理・感染看護学領域
- 看護教育学領域
- リプロダクティブヘルス看護学領域
- 小児看護学領域
- 成人看護学領域
- 周麻酔期看護学領域\*
- 老年看護学領域
- 精神看護学領域
- 家族看護学領域
- 在宅看護学領域
- 公衆衛生看護学領域
- 国際看護学領域\*

※修士課程のみ

#### 実践コース

- 公衆衛生看護学領域実践コース(保健師国家試験受験資格取得課程)

#### 専門看護師(CNS)コース

- がん看護学領域
- 感染管理・感染看護学領域
- 精神看護学領域
- 在宅看護学領域

- 大田原キャンパス（栃木県）
- 成田キャンパス（千葉県）
- 東京赤坂キャンパス（東京都）
- 小田原キャンパス（神奈川県）
- 熱海キャンパス（静岡県）
- 福岡キャンパス（福岡県）
- 大川キャンパス（福岡県）

## 国際医療福祉大学附属病院

- 国際医療福祉大学病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学成田病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学市川病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学三田病院（東京都）
- 国際医療福祉大学熱海病院（静岡県）

230901000

# 国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

## GUIDEBOOK

# 看護学分野 周麻酔期看護学領域

## 医療福祉学研究科

### ■修士課程 保健医療学専攻



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

# 国際医療福祉大学

## 周麻酔期看護学とは

周麻酔期領域の教育は基礎医学と臨床医学が特に重要であり、臨床では行為や使用する薬剤が人命に直結する超急性期の医療分野であるために、十分な時間をもっておこなうべきであり、幅広い視野からの教育が求められます。

近年、手術症例の高齢化が加速してきており、手術のリスクだけでなく、基礎疾患の存在によるリスクがあるなど、医療の高度化が進んでいます。そのため、麻酔科医と協力することで、周麻酔期医療の安全と質の保障、さらなる向上を目指すのが周麻酔期看護師です。



### 本学で周麻酔期看護領域を学ぶメリット

- 1. 自由度が高い学び方:** オンラインおよび動画教材を用いて講義を行うため、場所・時間に縛られることなく、受講することができます。
- 2. 周麻酔期医療の安全の向上:** 周麻酔期看護を学ぶことで、麻酔科学、病態生理、薬理学等の講義を通して知識とスキルを学ぶことができます。これにより、術前、術中および術後の患者に対して、麻酔科医と共に適切な医療行為を行い医療の質と安全性の向上をめざします。
- 3. 専門性の向上とキャリアの発展:** 周麻酔期看護の学習により、麻酔に関する知識とスキルが磨かれます。これにより、自身の専門性を高めることができます。また、周麻酔期看護の専門知識を持つことは、キャリアの発展にも繋がる可能性があります。
- 4. 修了後も継続的に学習が可能:** 大学院を修了した後も、学会発表や論文投稿等を教員とともにを行い、継続的な学習ができます。

### 修了後に活躍が期待できる具体的な姿

- 1. 麻酔計画の立案と実施:** 麻酔計画は患者の状態や手術の種類に基づいて作成します。評価、必要な医療機器のセットアップ、麻酔薬の調整など、麻酔中の観察とケアを行います。
- 2. 患者の安全管理と観察:** 麻酔中は患者の生命維持に必要な機能が低下しているため、患者の安全管理と観察が重要です。意識レベルなどをモニタリングし、異常があれば早期に対応します。また、合併症の予防や管理、緊急時の対応も行います。
- 3. チーム医療への参画:** 手術室・集中治療では複数の専門家がチームとして働いています。周麻酔期看護師は、麻酔科医、手術室スタッフ、病棟スタッフなど他の医療従事者と密接に連携し、チームとして働くため、情報の共有や意思疎通の促進、手術中の協力などを大切に、効果的な医療チームを形成します。
- 4. 患者と家族へのサポート:** 麻酔は患者と家族にとって不安な体験になります。周麻酔期看護師は、患者と家族に対して麻酔の説明や情報提供を行い、不安を軽減します。また、術後のケア・指導も行い、患者と家族のサポート役としても活躍します。
- 5. 研究活動を通して質の担保:** 周麻酔期看護師は、麻酔の安全性や効果を向上させるために研究活動にも参加します。学会参加や論文投稿を行うことで、麻酔ケアの質の向上に貢献します。

## 担当教員



医学博士  
医学部教授  
成田病院  
麻酔・集中治療科  
教授  
稲垣 喜三



医学博士  
医学部教授  
三田病院  
麻酔科部長・  
手術部部長  
馬場 靖子



医学博士  
医学部教授  
三田病院  
麻酔科部長・  
ICU 部長  
宮下 徹也



保健学博士  
周麻酔期看護学領域  
講師  
東京赤坂キャンパス  
水戸部 優太

## 働きながら学べるカリキュラム

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
勤務可能				13:00 ~ 21:15	9:00 ~ 21:15	9:00 ~ 19:30

1年次の授業（青色の部分）は、毎週木金土で構成されており、それ以外は、働くことが可能です。2年次は長期間の実習があるため、上記のカリキュラムとは異なります。

周麻酔期看護師を養成する大学院では唯一の、働きながら修士号および特定行為を取得できる大学院です。麻酔および集中治療をリードする講師陣を集め、麻酔に必要な知識を網羅した魅力的な授業を行います。必須科目（講義のみ）および一部の選択科目はVOD（ビデオ・オン・デマンド）またはオンライン講義に対応しているため、都合により受講できなかった場合でもWeb上で視聴し、課題を提出することで単位認定につなげることができます（視聴期間には期限があります）。



## 実習施設

臨床実習は、周麻酔期看護師が勤務する、以下の附属病院で実施します。

### ●国際医療福祉大学 三田病院

周麻酔看護士の術前業務は、患者訪問と術前情報で得た情報を統合して麻酔科医と意見交換を行いながら麻酔計画を立て、個々の患者に応じた対応策を検討して手術に挑みます。術中管理は、麻酔科専門医の直接指示の下、挿管操作を行い麻酔器の呼吸調節を行います。常に適切な術中管理が担保できるよう麻酔科医と連携を図りながら麻酔の維持を行っています。抜管操作においても麻酔科専門医の直接指示の下、抜管操作を行い安全な覚醒状態を確認します。術後業務は、術後訪問を行い麻酔で生じた合併症や手術侵襲に対する麻酔管理が適切であったかを評価し、担当麻酔科医と情報を共有して最善の麻酔管理を磨き続けています。

### ●国際医療福祉大学 成田病院

術前外来では予定手術の全症例、1日約20人の患者の情報取収、カルテ作成、問診、診察、禁煙指導等を行っています。麻酔業務では、直接関与（週に1度、麻酔科医師と共に実際に麻酔管理をする）と間接関与（重症症例や外勤医師の麻酔時のサポート、麻酔時のトラブル対応など）をしています。術後回診では疼痛の状況、PONV、咽頭痛の有無等を評価し、麻酔科医師に報告、必要な鎮痛方法や制吐剤使用の提案をしています。



国際医療福祉大学 三田病院



国際医療福祉大学 成田病院

## 看護師特定行為研修

特定行為研修は、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修になります。

本学大学院 周麻酔期看護学領域では、生理学・解剖学・薬理学および麻酔科学などの専門的な知識を国際医療福祉大学の教員がオンラインで講義を行います。また、グループ病院での実習では、麻酔科医師から直接指導を受け、高い麻酔管理技術の習得を目指し、周麻酔期における包括的ケアを提供できる看護師を育成します。

### 本学では術中麻酔管理領域パッケージ（6区分12行為）を修得することができます。

呼吸器 (気道確保に係るもの)	・経口気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの)	・侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・人工呼吸器からの離脱
動脈血液ガス分析	・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保
栄養及び水分管理に係る 薬剤投与	・脱水症状に対する輸液による補正
術後疼痛管理	・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与および投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与	・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

## 課題研究について

主に周手術期に関する臨床研究を行います。そのため、研究計画書の立案、統計解析ソフトの使い方・データの読み方、論文の書き方を指導教員と一緒にいきます。研究成果については、修了後も指導教員がサポートし、論文投稿を目指すことも可能です。



## 課題研究のスケジュール（例）

M1 4-5月	・研究テーマを検討、計画書作成	M2 4-5月	・解析結果をスライドにまとめる
M1 6月	・倫理委員会提出	M2 6月~	・実習期間中、麻酔科に発表
M1 10月	・データ収集開始	M2 8月~	・論文を作成
M1 3月	・データ解析	M2 11月	・論文完成

## 業績一覧 ※下線が本領域の修了生です。

2023年

- ・ Differences in Analgesia Methods for Open Gastrointestinal Surgery Are Not Associated With Initial Postoperative Ambulation. Yuta Mitobe, Takeshi Ito, Yuri Yamaguchi, Tomomi Yoshioka, Kenji Nakagawa. Journal of clinical medicine research. In press
- ・ Predictors of Catheter-Related Bladder Discomfort After Surgery: A Literature Review. Yuta Mitobe, Tomomi Yoshioka, Yasuko Baba, Yuri Yamaguchi, Kenji Nakagawa, Takeshi Ito, Kiyoyasu Kurahashi. 15(4)20 208-215 2023年4月

2022年

- ・ Effect of Upper Limb Warming Blanket on Body Temperature Control During Total Hip Arthroplasty and Total Knee Arthroplasty. Yuta Mitobe, Kenji Nakagawa, Yasuko Baba, Tomomi Yoshioka, Yuri Yamaguchi, Takeshi Ito, Kiyoyasu Kurahashi. Journal of Current Surgery 12(1) 7-14 2022年3月
- ・ A Literature Review of Factors Related to Postoperative Sore Throat. Yuta Mitobe, Yuri Yamaguchi, Yasuko Baba, Tomomi Yoshioka, Kenji Nakagawa, Takeshi Ito, Kiyoyasu Kurahashi. Journal of clinical medicine research 14(2) 88-94 2022年2月